



こんにちは、ふちせ栄子です。

電話 095-849-6481 メール eiko@mail.117.cx ホームページ <http://jcpngsk.web.infoseek.co.jp/>

猛暑に負けず、党の姿を幅広い人たちにと...



西海市で

格別の猛暑の中、ふちせ栄子さんは8月末の21日から27日までの一週間、「選挙本番」並みの気迫で県下をかけめぐりました。

21日の長崎市浦上天主堂前では、宣伝カーの上から平和への思いを切々と語り、通行する多くの人たちから、多くの声援をもらいました。このほか西海市、平戸市、五島市など県内各所で、政府交渉などで県民要求実現のために頑張っている党の姿を訴えました。



五島市で橋本市議と



佐々町で懇談会

大村市、諫早市、五島市、佐々町などでは「党を語る会」や「懇談会」など、大小の集会に参加しました。

ふちせさんは、子どものころのエピソードを交えながら、自己紹介。日本共産党が小泉構造改革に正面から反対して、「国民一人ひとりが大切にされる社会をめざす、真の改革の党」であることなど語りました。そして、「この党が伸びてこそ政治が変わる」と、いっせい地方選挙と参院選での支援を呼びかけました。



大村市で党を知る会



中心碑に献花する党代表団

「恵の丘原爆ホーム」では、入所している被爆者のみなさんの歌で歓迎してもらいました。被爆者のみなさんに激励のあいさつをして、ホームの理事者と懇談しました。さらに夕方には、爆心地公園を訪れ、中心碑に献花しました。9日は、長崎市の平和式典に参加し、被爆者代表の言葉などを深く心に刻み、平和への思いを新たにしました。その後、原水爆禁止世界大会や長崎被災協のレセプションなどに参加し、多くのみなさんと、平和への交流を深めました。

61回目の長崎の夏。日本共産党は平和のための活動に集中的にとり組みました。8日、党代表団の仁比そうへい参議院議員、春名なおあき元衆議院議員(参院比例予定候補)、ふちせ栄子党県国会事務所長(参院選挙区予定候補)、堀江ひとみ長崎市議(県議予定候補)らは、最初に原爆病院を訪問。病院側から、被爆者の病状などを聞き、入院している被爆者を見舞い、激励しました。



原爆病院で被爆者見舞う春名氏ら

核兵器のない、平和な世界めざして 春名、ふちせ氏らが被爆者慰問など

平和のために確かな一歩を



式典会場

「栄子のちょっとエッセイ」(8/13から)

8月9日、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に初めて参列しました。これまで、テレビや新聞などの報道で接し、11時2分にはどこにいても黙とうすることを心がけてきました。「核兵器のない平和な世界を」の願いを共にするために。

しかし、初めて参列した私に伝わってきたのは、「願い」だけではありませんでした。「無念さ」がひしひしと伝わってくるのです。涙をこらえることができませんでした。

被爆者代表の中村キクヨさんが、「被爆二世の次男を白血病で亡くした時に、先生から『白血病は母体からもらったものだ』と言われ、この一言が忘れられず、私は今も苦しんでいます。」と、言われた平和の誓い。

同じ空間に、その場にいてこそ伝わってくる感情があることを改めて感じました。この経験を大切にしたいと思います。長崎市長が読み上げた長崎平和宣言は、2006年を再出発の年とすることを決意し、恒久平和の実現に力を尽くすことを宣言しました。私も、その場にいた一人として、確かな一歩をふみだしたいと思っています。

(ホームページで連載中です)